

令和6年度 学校評価
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立坂戸中学校
実施日	2月4日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	・教職員の役割の共通理解を図る。特に全校集会実施時の役割分担について共通理解を図るとともに、学年内での役割分担を明確にする。	A	・「坂中スピリット」は、具体的ではないが覚えやすわかりやすい言葉である。形骸化しないように、これからも丁寧に意味を説明しながら使ってほしい。 ・生徒の8割9割以上が学校教育目標やあじみこしを意識して学校生活をしており、生徒に浸透している。学校だよりなどHPで情報提供がなされている。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	・不審者対応について夏季休業中の職員研修で実施できるかを検討していく。生徒は動画の視聴し対応方法を学ぶ。	B	・不審者対応の訓練や研修はぜひ行ってほしい。特に放課後の部活動時間帯は、校門等も開放されており生徒教職員も分散している。いろいろな状況それぞれの訓練ができなくても、部活単位でも動きを確認しておく必要があるのではないか。研修やマニュアルがあることで、緊急時に迅速に対応できている。 ・時間的に限られた中で、災害やトラブル対応について、研修を重ねることが必要である。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(市共通項目)	B	・所見をなくす、時間短縮等、業務時間を確保しているので、短縮日課の期間は定時退勤を目指す。 ・部活動終了後、2時間以内で退勤できるよう働き方を見直す。 ・ノー残業デーが有効に機能するよう、月の行事予定に日を設けて実施していく。 ・行事の精選については、前年度と同じではなく、年ごとに行事の内容を精選していく。	A	・学校の中だけでは改善しきれないところもあるので、市教育委員会は校務や会計などの専任職員の配置を考えてほしい。 ・放課後は留守番電話にして、勤務時間が長くないようにするなど配慮があると感じた。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、主体的・対話的で深い学びのある授業をしている。(市共通項目)	B	・月1回の校内授業研究を行っているため、全員が順番に授業を行うことで、お互いの授業を見合うことを担保でき、高め合うことができる。 ・研修を丁寧にやっていくためには、授業を削る前に部活を削っていく必要がある。	A	・研修を重ねていることは評価できる。しかし研修が負担になって本業を圧迫しているようなら見直しが必要と思われる。 ・9割以上の生徒がペアやグループで自分の意見を伝える機会が多いと答えており、授業参観でも生徒が主体的に参加できていると感じた。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	A	・校内授業研究の際に、道徳の授業を重点授業として行う。	B	・授業だけでなく、日頃の先生と生徒、また生徒同士の関係作りも重要だと思う。何かの際に相談しやすい環境作りを努めていただきたい。 ・多様性を認めることは、理解していても実践することは難しい。 ・生徒一人ひとりの個性をお互いに認め合う授業を続けてほしい。 ・道徳の授業を複数の先生が担当され、それぞれの授業が展開されている。
	6	児童生徒は、時と場に応じた態度をとることができ、意欲的に学校生活を送っている。	B	・挨拶や言葉遣いについては、率先垂範で取り組んでいく。 ・保護者への情報発信を継続的にし、現状を知ってもらうことで協力を得る環境を整備していく。言語環境や忘れ物は、学校だけでできることには限界がある。家庭との協力体制をどう構築していくかを考えていく必要がある。 ・学習指導要領の範囲で授業の内容の精選し丁寧な指導を行っている。	A	・教科書などを学校に置いていっていいと言われた頃から、自宅学習に必要な物まで置いて帰る生徒が増えたようだ。常に置いていっていい教材、必要に応じて持ち帰る教材など年度初めだけでも指導してほしい。自分で判断すべきではあると思うが、判断基準もわからない生徒がいるのも事実なので。 ・廊下ですれ違う時に挨拶をする生徒が多く、気持ちが良い。 ・学校に訪問した際は、生徒から挨拶をしてくれ、落ち着いた態度で生活されているように感じる。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のための研修や活動に積極的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	・倫理確立委員会を実施することで、自分事としてとらえる教職員が増えた。	A	・学校での取り組みが効果的に作用している。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にすることを大切にしている。(市共通項目)	A	・教育相談部会報告は、内容を整理し対応策をわかりやすく周知できるようにする。(例 色を付ける、情報量カットなど) ・担任任せの対応ではなく、学校全体で組織的に対応していく。 ・マニュアル的な対応を見直し周知していく。実際に取り組んでいる内容も周知できるようにする。	A	・問5と同様クラスになじめない生徒の校内の居場所として、相談室と学習室をこれからうまく活用してほしい。 ・お忙しい中、一人ひとりの生徒に丁寧にこ対応されている。負担もあると思うので、複数で全体的に取り組むとされると負担が軽減すると思う。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。(市共通項目)	B	・引き続き、特別支援の研修を行い理解を深めていく。	A	・通常クラスに在籍している特性がある生徒が増えているので、特別支援教育についての研修は教職員全体で続けてほしい。 ・特別支援学級への研修など実施されているが、さらに共通での理解が必要であると感ずる。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	A	・デジタルツールを活用した安全点検にし、点検日にはメールと日報で職員に周知する。 ・学年ごとに掲示方法等を工夫していく。 ・各教科でなく、夏季休業日に一斉に備品整理の時間を確保する。	A	・以前よりも通路、廊下の掲示物の入れ替えが早くなった。特にAB通路の掲示は生徒の作品にふれる機会なので楽しみにしている。 ・特に危険と思う箇所もなく、清掃もきちんとしていてと感じます。掲示物に関しては、クラスによって、力が入っていたりそうでなかったり、ばらつきがある印象です。 ・安心安全な教育環境が整備されていると思います。掲示物など改善点はある。 ・現状で問題ないと思います
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。	A	・ICT(ホームページ、保護者への通知、保護者の出欠確認)を活用して開かれた学校づくりを行っている。	A	・学校便りが回覧から配信になるなど、広く地域の人の目にふれる機会は減ってしまったが、配信されることでいつでも確認できるようになった。また、地域の中で広げてほしいとフォーラムの共有もされていていい取り組みだと感じている。 ・ホームページを見ると、中学校の近況を見ることができるので、開かれている印象です。年間予定の掲載もあるので、身近に中学生がいない地域の方でも、興味のある方は参加しやすいと思う。 ・ホームページなどから適切な情報発信が行われており、保護者との情報共有もされており、学校理解、開かれた学校になっている。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携した子どもの問題解決を図っている。	B	・学生ボランティアを有効活用することができた。来年度も継続していきたい。 ・インターネットを活用した学習(eライブラリー)を周知して、家庭でも学習に取り組む流れを作っていく。 ・校務支援システムによる情報共有が行われ、有効活用されている。教育委員会とも情報を共有できている。	B	・読み聞かせと、図書室のボランティアは、地域の方に長く協力してもらっていることを教職員や生徒にも知ってほしい。 ・民生委員など地域との情報共有の機会を設けてほしい。 ・教職を目指す学生にとって、生徒との関わりが持てる貴重な機会感謝している。今後とも継続してほしい。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。	B	・学校全体でつながろうとするより、小6と中1の引き継ぎをしっかりと行う。 ・部活公開 見学をしたい場合は学校に連絡をして日にちを調整する。	B	・進級してくる生徒、保護者の不安に寄り添っていない姿勢が、中1ギャップを生む要因の一つなのではないか。小学校と同じである必要はないが、小学校時代を踏まえて中学校ならではの取り組みを進めてほしい。 ・行事などを通じて、中学生としての姿を見ることができると良いと思う。